

2026-2-4

## 古本募金 一貧困地域の子どもたちのためにー

3年1組20番 萩原 悠月

Keyword:「フィリピン」「子ども」「児童養護施設」「貧困」「古本募金」

### 1. はじめに

貧困地域の子どもたちの役に立つ探究がしたいと思ったのは、2年生の冬にフィリピン研修に参加したことがきっかけだ。研修では、貧困地区訪問、小学校訪問、施設訪問、ホームステイなどを行った。その中でも特に心に残ったのが、研修を主催している、日本の民間団体が運営する児童養護施設を訪問したことだった。そこには貧困や、貧困からくる家庭問題などにより家族と一緒に暮らせない子供たちが生活していた。施設は手作りの部分も多く、温かみを感じるものだったが、1人の施設のスタッフがこう言った。「お金があったら、もっと設備を充実させられるのに。」民営の児童養護施設は、後日訪ねた国営の児童養護施設ほど設備が充実しておらず、古かつた。その経験から私は、貧困地域の児童養護施設の子どもたちのために何かできることがないか考えた。

### 2. 序論

私は「貧困地域の子どもたちのために、日本で何ができるか。」という問い合わせ立てた。実際に貧困地域へ足を運ぶことで、得られる情報や、成し遂げられることは多い。しかし、高校生の身で何度も現地へ行くことは簡単ではないので、日本にいながらも、子どもたちのために何か役に立てる事はないのか考えた。

フィリピンの貧困率は18.1%であり、子どもに限ると26.4%に達する(世界銀行、2021年)。教育機会の欠如や幼い頃からの就労が問題になっている。児童養護施設で暮らす子どもたちもいるが、フィリピンでは、福祉政策に対する予算が充分にないため、民間の施設へは国や地方自治体からの補助金が一切なく、ほとんどの民営児童養護施設が寄付によってどうにか運営を成り立たせている状況だ。子ども達の衣食住の確保だけで精一杯という施設が多く、心身ともに子ども達が充分なケアを受けることができないことが課題となっている。

貧困の子どもたちのために、日本にいながら何かできることがないか探す中で、ひとつの活動を見つけた。古本チャリティ募金という活動だった。それは、もう読まなくなった古本や、使わなくなったCDを送ると、査定され、査定金額が慈善団体の活動資金として寄付されるというものだった。私が行ったフィリピン研修を主催していた団体も、寄付先としてあった。私は、フィリピンの児童養護施設の子どもたちのために、古本やCDを集めて送ろうと考えた。

### 3. 本論

1人の力ではあまり集まらないと思ったので、地域の非営利団体に協力を依頼し、地域の子育て広場で本を集めた。本を集め際、私がフィリピン研修で体験したこと、フィリピンの児童養護施設の状況、団体の活動の説明を含めたポスターを作った。また、より高額になる本の種類は、専門書や学術書であり、状態は、汚れなどがなくきれいな本の方が良いと条件に書かれていたので、そのような本が嬉しいと呼びかけた。子育て広場を利用する人たちに直接宣伝も行った。さらに、1回集めるだけで終わらせず、別の地域の同じ団体が運営する子育て広場でも同様の活動を行った。活動期間は5月から8月の4ヶ月間に及んだ。計120冊以上の本、約20冊のCDが集まつた。種類としては絵本や小説も集まつたが、より高い金額となる専門書などが多くかった。また、どの本もきれいで状態が良かった。集まつた本とCDは全て古本チャリティ募金に送り、その査定額は貧困地域の子どもたちのために使われた。

## 古本を集めています！

古本を集めて、「CFFジャパン」に活動資金として寄付しています！  
ぜひご協力下さい！



### 4. 結論

日本にいながらでも、実際に支援ができた。また、一人では、多額の寄付をすることは難しいが、たくさんの人に協力してもらったことで、多くの本が集まって、結果的に多くのお金になった。日本からでも支援できたのは嬉しいが、そもそも貧困地域の子どもたちを支援したいと思うようになったのは実際にフィリピンに行ったからで、フィリピンの児童養護施設の現状も、現地に行って見なければ詳しく分からなかつたので、実際に現地に行くこともやはり大切だと分かった。

多くの本が集まり、多額を寄付できたとはいえ、今回の活動は一時的で微力なものであり、貧困の根本的な解決にはならない。貧困問題を解決するためには、未来を担う子供たちへの教育や支援を行い、貧困の連鎖を断ち切ることが重要であると考える。そのためには国や企業が動くことが必要であり、個人には難しいが、事実を知り、継続的に有益な支援をすることが、私たちにできることだと考えた。

### 5. おわりに

「貧困地域の子どもたちの役に立ちたい」という漠然とした思いから始めた探究だったが、実際に自分で支援方法を探すところから、協力の依頼、実行まで行い、日本にいながらも、微力ではあるが支援ができたことに喜びを感じた。また、本を集めることで色々な方に協力してもらえた。非営利団体の方や、子育て広場の方と、活動の計画について話し合ったり、助言をいたしたりして、社会との関わりや、協働力を身に付けられた。ひとつのプロジェクトを成し遂げることは、自分一人の力では決してできず、多くの人の助けがあって初めてできることだと実感した。

### 6. 参考文献・出典

「CFFジャパン」<https://cffjapan.org/>

「古本チャリティ募金」本棚お助け隊 <https://charity.hondana.biz/>

「フィリピンの孤児院の現状」NPO法人アクション <https://actionman.jp/kojin.html>

「フィリピンの貧困の要因とは？プラン・インターナショナルの取り組み」プラン・インターナショナル・ジャパン [https://www.plan-international.jp/social\\_issues/meaning-poverty\\_philippines/](https://www.plan-international.jp/social_issues/meaning-poverty_philippines/)

## 寄付する前に！確認リスト

①その本・用品は受け付けられていますか？

- こんな本・用品を受け付けています！
- 専門書、学術書、ビジネス書 ←大歓迎！
- 学習書
- アート本・写真集・趣味
- 絵本、児童書
- 音楽CD、DVD



✗受け付けていません

- コンビニコミック、不遜いのコミック
- 週刊誌
- 辞典・辞書
- 教科書



②コンディションは大丈夫ですか？

- シミがある
- やぶれている
- 臭いがある
- 書込みがある

上記のような本は受け付けていません！

「欲しいと思われる状態かどうか」が判断基準の一つです！

③これらは削っていますか？

- バーコード・ISBN
- カバー(絵本はカバーがないものでも可)
- 付録や特典

上記が削っているものが対象となります！



ご協力ありがとうございます！